

学校だより

以下に記載の学年は、各学校行事実施時のものである。

1 学年 研修

2月20日から22日までの3日間、「学年研修」としてプログラムを組み、経験を積んだ。初日は、笠間市の「松佐陶工房」にて、ものづくり体験「笠間焼陶芸」として『ろくろ体験』『絵付け体験』をした。特にろくろでは、心配をよそに講師からお褒めの言葉をいただく程うまく作製できた。完成できない例が必ず出るそうだが、本校は全員が完成させることができた。生徒はろくろを回すことにより集中力が高まり、完成した際には大きな達成感を感じていた。

2日目は日立ハイテク（那珂サイトとマリンサイト）にて工場見学をさせていただいた。コロナ禍の折そしてご多忙のところ、受け入れてくださった事業所と日工同窓会の皆様には感謝申し上げたい。生徒は働くことへのイメージが湧き、先輩方の仕事に対する熱意や使命感を感じていた。将来の姿を間近で感じられる工場見学こそ、他校にはない日専校生の醍醐味である。

最終日には、高鈴山ハイキングを実施した。本来4月に計画していたが、荒天のため延期した。今回は天

候・気温にも恵まれ、参加者全員が登頂して無事に下山できた。約10キロの道のりであったが、皆で協力して登り、下山した後に食べたカレーライスは普段とは一味違うと生徒は言っていた。4月に2学年への進級を控え、クラスや学年全体で行事を実施できたことは生徒にとって大きな経験であり、進級後も積極的に行動できる学年になって欲しい。



2 学年 宿泊研修



2月20日から23日、プリンスグラウンドリゾート軽井沢において、2学年の宿泊研修を行った。スキー技術はインストラクターの丁寧で熱心な指導のおかげで、生徒全員のレベルが向上できた。最終日のフリー滑走では、各班のリーダーを中心に、した事前ミーティングの実施により、ルート設定、RKY、報連相などを確認して出発し、全員が無事に終了できた。

テーマ研修では、2年生を振り返って、できたこととできなかったことを再確認し、社会人として必要なスキルを学び、事業所への自己PR資料の作成と考動アクションに関連した達成度チェック表を作成した。これによって、生徒自身が自分を見

つめ直し、今後の生活の中で習得すべきことや身に付けるべきことを明確にできた。

体調不良によって4名の生徒が参加できなかったことは残念であったが、研修中に体調不良者が発生しなかったことは良かった。本研修で学んだことを今後の生活に役立てるとともに、振り返りによって明らかになった課題克服のために、工場実習までに達成すべき目標を設定して取り組んでほしい。

ペップトーク研修

3月3日に、日本ペップトーク普及協会から岩崎由純氏を講師にお招きして、1、2年生と教職員向けにペップトーク研修を行った。ペップトーク「PeP Talk」の「PeP」は英語で、元気、活気、活力という意味であり、もともとアメリカでスポーツの試合前に監督やコーチが選手を励ますために行っている短い激励のスピーチのことで、学校や職場で生徒や部下を励ますことにも応用できる。研修では、サッカーアルゼンチン代表、メッシ選手がコパ・アメリカ（大陸選手権大会）の決勝戦前にチームメイトへ送ったスピーチや、6歳の幼稚園児が病気のお母さんのために跳び箱10段にチャレンジした際の、年長の園児たちが起こした励ましの行動など、感動的な映像も交えて、ことばの力、ことばが

起こす奇跡が紹介された。今回の研修で学んだことを、生徒や私達教職員が学校の様々な場面で応用実践し、活力ある日専校を築いていきたい。



生活体験報告会

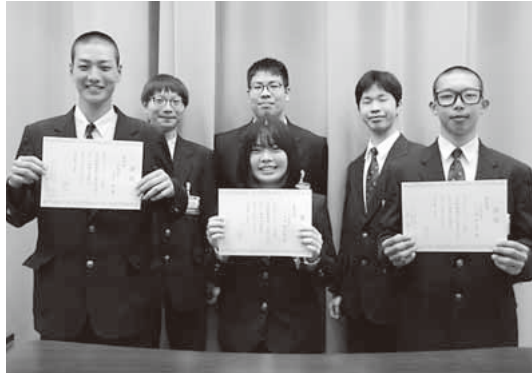
3月13日、体育館において、2022年度生活体験発表日専校大会が行われた。生活体験発表会は、全国高等学校校定時制通信制教育振興会が主催する、今年で71回目を数える歴史ある大会である。そもそもは勤労学生の顕彰を目的に開催されてきた。第1回大会から時代は流れ、定時制通信制学校は勤労学生のためだけのものではなくなった。デジタル化時代を反映し、多様な学び方を求める生徒たちが入学している。生活体験発表の内容も時代に応じて変化して

(8頁へ続く)

(7頁の続き)

いる。ここ数年はコロナ禍の影響で大会中止を余儀なくされ、3年ぶりの開催となった。

1・2年生の各クラス代表6名が、学校生活や日常生活の中で得た自らの体験を懸命に語った。彼らの発見や感動は聴く者の大きな共感を呼び、発表会は成功の裡に閉じた。優秀賞3名の中から1名が選ばれ、日専校代表として、東京都世田谷区の科技高本校で開かれる大会へと駒を進める。



工場実習代表発表会

3月14日、日専校体育館にて工場実習代表発表会を実施した。この行事の趣旨は、選出した3年生代表者に学校で発表してもらい、聴講する下級生に学ぶ機会を与えるというものである。代表者は、例年2月に各

事業所で3年生全員が、工場実習の集大成として実習内容、学んだこと等をスライドにまとめて行う発表会に基づき、決定している。

当日、6名の代表者は緊張しながらも、職場紹介、改善事例なども交え、立派に発表できた。1・2年生からも多くの質問があった。将来の就職先や実習、技能五輪訓練について知る貴重な機会であるため、意欲の高さが伺えた。例年そうであるように、下級生にとってこの体験もまた、来年、再来年の工場実習発表会の糧となることだろう。



クラスマッチ

3月17日にクラスマッチを実施した。今回も昨年同様、知力部門、スポーツ部門、技能部門をミックスさせた「知力・体力・技能総合クラス



マッチ」と称して実施した。種目は知力部門から日立ウルトラクイズ、スポーツ部門からバレーボール、バスケットボール、バドミントン、リレー競走の4種目、技能部門から配線組立の合計6種目で争った。個人の特性を踏まえてメンバーを選出し、クラスで協力しながら、団結する姿が見られた。この戦いを制したのは、リレー競走で1位を獲得した2年機械科が総合優勝、第2位が2年溶接科、第3位が1年機械溶接科となった。少ない人数ながら第2位になった2年溶接科の健闘を称えたい。

卒業式

3月23日に、第108回日立工業専修学校ならびに第56回科学技術学園高等学校の卒業式を日専校体育館で挙行了。当日は会場への入場者数を制限したためライブ配信も行った。

式典では、日専校と科技高それぞれの卒業証書授与、賞状授与、学校長と学校管理者のことは、日工同窓会のことば、在校生代表者のことばの後、3年電気科の益山柊君から卒業生代表のことばがあった。最後に校歌を斉唱して式典を終えた。この3年間はコロナ禍で校歌を斉唱できなかったので4年ぶりの斉唱であった。卒業生72名は今後、日立グループの各職場で、将来の中核人材として活躍することを期待している。



トヨタ工業学園交流会

3月28日から29日にかけて、愛知県豊田市にあるトヨタ工業学園にて交流会を実施した。トヨタと日立双方の成長につながる機会作りを目的とし、職場で即戦力になるために何が必要かを考え、日常の取り組みにつなげることを目標とした。10月

に行った日立での交流会から具体的に取り組んできた内容の共有と、振り返りを実施した。グループディスカッションでは、生徒会、寮役員、部活リーダーと3つのカテゴリに分かれて活発な意見交換をした。次につながる新たな目標を決め、日常生活での実践に繋げていく。今後も定期的に交流会を重ねていき、日専校生としての「あるべき姿」に近づけていきたい。

2年溶接科 大曾根 陸

この2日間のトヨタ学園との交流会で感じたこと、学んだことがたくさんありました。1つ目は安全意識の高さです。階段では右側通行、必ず手すりを使う、段飛ばしで昇らない。丁字路や曲がり角、道を渡る際には必ず左右を確認して指差呼称をするなど、様々なことをしていました。その他にも細かい所まで安全に気を遣っている姿をたくさん見ました。その中でも自分がこれからの生活で取り入れたいことはタッチ&コールです。これを実行することによってその作業の危険項目を確認することができ、声を出すことで安全意識も高まります。

学びの2つ目は人間力の高さです。トヨタ学園では主体性があつて周りに気配りができる人ばかりでした。対して私は主体的に行動することが難しく、後回しにしたり、周りに任

(9頁へ続く)

(8頁の続き)
 せてしまうことが多くあります。それを改善するためにもまずは小さな目標から積極的に取り組み、徐々に大きくして最終的には積極性と主体性を身につけたいと思います。



学びの3つ目は何事にも全力に取り組む姿勢です。トヨタ学園の朝礼を見て思ったのが声がとても大きいです。生徒全員が大きく息を吸って体が前後に動くくらいに全力で声を出している姿がとてもかっこよかったです。また手帳を見せてもらったら、クラス目標に「フルスイング、空振りをおそれるな」と書かれてありました。その目標に全力で取り組む！という気持ちがとても伝わってきました。それを見て自分も

入寮、入学式

何事にも全力で取り組む挑戦の気持ちを持つとうと思いました。この交流会で得られた課題を次の交流会までに達成すると共に、学んだことをこれからの学校生活に活かしていきたいと思えます。

(写真はトヨタグループ創始者・豊田佐吉氏の最初の発明「豊田式木製人力織機」(複製)の前で両校生徒を撮影)

4月6日、各地から入寮のため日専寮に新生が集まった。午前中は入寮説明会と自分の荷物を整理することから始まり、不安な表情の生徒や、期待からわくわくした表情の生徒と様々であった。午後からは新しい制服に袖を通し、入学式に臨んだ。今年も新型コロナウイルス感染防止のため、入場者を制限した。対策として、入学式の模様をライブ配信し、入場できない方々にも見ていただいた。

日専校の今泉校長、科技高の吉田校長から校長のことは、日立製作所グローバル人財開発部の小林部長から学校管理者のことは、3年溶接科の工藤君から在校生歓迎のことは、後、新生代表として新家麗央君から入学生誓いのことばがあった。57名の新生は晴れて日専校生となった。これからの3年間、この学び舎でたくさんのご経験を成し、世界に羽ばたく社会人をめざしてほしい。



新生歓迎会、導入教育

新生は4月7日から13日までの約1週間、3年間の学校生活の基本となる導入教育が始まった。今泉校長の講話から始まり、学校、寮、安全のルールや仕組み、ICTについての教育、考動アクション講習、部活動紹介などを受けた。4月7日の午後には体育館で全校生徒職員による

長から校長のことは、日立製作所グローバル人財開発部の小林部長から学校管理者のことは、3年溶接科の工藤君から在校生歓迎のことは、後、新生代表として新家麗央君から入学生誓いのことばがあった。57名の新生は晴れて日専校生となった。これからの3年間、この学び舎でたくさんのご経験を成し、世界に羽ばたく社会人をめざしてほしい。



高鈴山ハイキング

新生入寮からちょうど1週間となった4月14日、天候にも恵まれ汗ばむ陽気の中でハイキングを行った。全行程約10キロになるが、青葉台からスタートして高鈴山頂へ上り、かみすわ山荘側へ下山した。途中、一般の登山者の皆さんと挨拶を交わし「日専校だね」と声をかけられ、「元気が良くて素晴らしい」とお褒めの言葉をいただいた。下山後はかみすわ山荘の敷地をお借りして、カツカレーを食べたが、いつもより美味しく感じられた。生徒の中には「大変そう」「あまり行きたくない」という気持ちもあったようだが、皆で1つのことをやりきる達成感を得て、清々しい気持ちで帰校することができたようだ。今後の学校生活や寮生活も、仲良く協力しあって生活して欲しい。

新生入寮からちょうど1週間となった4月14日、天候にも恵まれ汗ばむ陽気の中でハイキングを行った。全行程約10キロになるが、青葉台からスタートして高鈴山頂へ上り、かみすわ山荘側へ下山した。途中、一般の登山者の皆さんと挨拶を交わし「日専校だね」と声をかけられ、「元気が良くて素晴らしい」とお褒めの言葉をいただいた。下山後はかみすわ山荘の敷地をお借りして、カツカレーを食べたが、いつもより美味しく感じられた。生徒の中には「大変そう」「あまり行きたくない」という気持ちもあったようだが、皆で1つのことをやりきる達成感を得て、清々しい気持ちで帰校することができたようだ。今後の学校生活や寮生活も、仲良く協力しあって生活して欲しい。



スクーリング開始、1年生オリエンテーション

4月27日から科学技術学園高校(以下「科技高」、本校は東京都)による今年度のスクーリング授業が開始された。1年生はこの初めてのスクーリングで、科技高の入学許可書を手渡された。日専校は科技高と技能連携している。この「技能連携制度」は、学校教育法に定められており、日専校(企業内学校)に在籍しながら科技高にも入学し、3年間で2つの学校の卒業資格が得られる。科技高の学習としては、科技高の教員が日専校で普通科目の授業を行うスクーリングとレポート提出、日専校の学習としては、日専校の教員による主な普通科目の授業と専門科目

一般の登山者の皆さんと挨拶を交わし「日専校だね」と声をかけられ、「元気が良くて素晴らしい」とお褒めの言葉をいただいた。下山後はかみすわ山荘の敷地をお借りして、カツカレーを食べたが、いつもより美味しく感じられた。生徒の中には「大変そう」「あまり行きたくない」という気持ちもあったようだが、皆で1つのことをやりきる達成感を得て、清々しい気持ちで帰校することができたようだ。今後の学校生活や寮生活も、仲良く協力しあって生活して欲しい。

(9頁の続き)

の授業(座学と実習)を行う。この専門科目はそのまま高校の学習として認められ、履修単位として取得できる。日専校と科技高の技能連携によって、二重学習が軽減され、専門的な知識・技能を身につけながら、3年間の高校生活を送ることができる。

離任者紹介

白川 良美先生



出身事業所…
日立プラズマディスプレイ(株)
担当:理科

2009年3月に日立プラズマディスプレイ(株)から異動して来て、14年間で日専校で過ごしたことになります。その間、1000人以上の生徒と学校生活を送ることが出来ました。退職に際し、多くの生徒がわざわざ挨拶に来てくれました。皆さん、本当にありがとうございました。

大町 義典先生 (63卒)



出身事業所…
(株)日立製作所
日立事業所
担当:溶接実習

2006年から17年間に亘り、日専校生徒の成長に携わり、サポート出来たことに感謝します。現在、製造業は劇的に進化・変化しています。変化するモノづくり環境を、各事業

所との連携を深めながら、「人間力+考動アクション」を実践し、新しい日専校が更に飛躍成長する事を望みます。

宮本 弘行先生 (63卒)



出身事業所…
(株)日立製作所
日立事業所
担当:製図実習

6年間の在任中は、多岐に業務させていただき感謝します。始めの2年間は日専校「考動アクション」の立ち上げと看板発注。中盤の2年間は日専校管理業務として食の改革(食事コスト削減)。終盤の2年間は寮の環境整備。あつという間の6年間でした。関係者の方々に感謝申し上げます。

新任者紹介

石塚 潤先生 (75卒)



出身事業所…
三菱重工業(株)
担当:製図実習
理科

三菱重工業株式会社から母校である日専校で働かせていただけることになり、しばらく離れていた日工同窓会に復帰することになると思いますが、各事業部へ配属される卒業生がその職場で必要とされる人材になるように、また、卒業生本人には将来日専校に入学して良かったと思ってもらえるように努めますのでよろしく願いいたします。